

為替レートの変動について

ーアセット・アプローチとマネタリー・アプローチー

東京国際大学 清水誠

本研究は為替レートの変動について、アセット・アプローチとマネタリー・アプローチについての理論的及び実証的分析と考察である。四半期のデータによるマネタリー・アプローチに基づく回帰モデルは統計的な当てはまりは良いが、それ以外の期間の長さのデータでは、少なくとも日本のマネタリー・ベースの変化では為替レートの変化を説明できそうにない。また理論的にもマネタリー・ベースから為替レートの変化には様々な疑問点が生じる。一方、アセット・アプローチはリスク・プレミアムの変化を外貨建て資産保有量（ここでは外貨建ての経常収支を用いた）の変化と関連付けると、理論的には非常に興味深いものである。しかし、統計にも有意と言える計量モデルが構築できるかが今後の課題であろう。